



学校だより

# ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.educityvokohama.jp/in/school/es/kamarivaminami/>

令和 2年 1月 31日  
横浜市立釜利谷南小学校

2月号

校長 田中 さくら

## 魔女になるために？！

大寒を過ぎてもまだまだ寒い日が続きます。先日の土曜授業参観では、雪が降るような寒い中、ご来校くださいました保護者の皆様、地域の皆様、ご参観ありがとうございました。子どもたちががんばっている姿を見せようと授業中いつもよりはりきっていました。さて、学校便りでもお知らせしました通り、土曜日の給食は独自献立でした。「魔女になるためのスープ」とクリスピーチキン、りんごゼリー、ロールパン、牛乳です。魔女になるためのスープは、図書館にもある同名の絵本からミミズスープのミミズに見立てたパスタがトマトスープに入っています。低学年の男の子たちが「これを飲んだら僕たちも魔女になるのかな？」と心配していたのが、かわいらしかったです。とてもおいしく、残量が全校でほとんどありませんでした。

## 文化や風習を考える

睦月むつき、如月きさらぎ、弥生やよい、卯月うづき、皀月さつき、、、元々は旧暦の月の呼び名です。漢字を用いて表現していて、その音の響きもすてきだなと感じます。また、それぞれ意味もあり、例えば、2月を表す「きさらぎ」は、諸説ありますが「着更着」で、寒いので衣を重ね着する月であるという説が有力だそうです。季節の移り変わりや日常生活から生まれた言葉や風習など、大事にしていきたいと思います。

1月は、子どもたちの書き初めが廊下に掲示され、たくさんの保護者や地域の皆様が本校の書き初め展に足を運んでくださいました。本校の書き初めは、低学年は鉛筆を使って教室で、3年生以上は毛筆を使って、学年揃って、体育館で行います。各教室の前に展示された作品は、どれも個性豊かで、見ているこちらにも楽しい気持ちになります。この書き初めの風習も「文字がきれいになりますように」と「一年の意気込みを表す」という意味を込めて昔の仕事始めだった1月2日に書くと言うことが始まりだそうです。筆を使う機会が少なくなった現代ですが、大切にしたい文化と風習だと思います。

2月の行事といえば、**節分**が思い浮かびます。調べてみますと、季節を分ける節分は、立春・立夏・立秋・立冬の前の日に行うということで年に4回行っていたのですが、旧暦では立春が1年の始めと重要視されていたことから立春の前の日だけを表すようになったそうです。大豆は五穀の一つで穀霊が宿るとされており穀霊で悪霊を祓うのに最適であることや「魔の目」(魔目=まめ)に豆をぶつけて魔を滅する(魔滅=まめ)にも通じるそうです。何気なく触れたり行ったりしている文化や風習もその由来を知ること、昔の人々の暮らしや思い、知恵に感心することが多いです。一方、最近はコンビニでも売っていて、食品ロス問題等もおなじみになった「**恵方巻**」ですが、元々は大阪の海苔問屋協同組合が節分のイベントとして行ったのをマスコミが取り上げ、それがきっかけで広まったとか。福を巻き込む巻き寿司なので、福を切らないように包丁を入れずに太巻きを丸かぶり(かじり)するそうです。ちなみに令和2年の方角は、**西南西**です。

文化や風習も時代と共に変わっていくものもあります。普遍的なものはしっかりと受け継ぎ、変化が必要なものは、最善を考えて変えていく。これは学校教育でもあてはまることと思っています。時代の潮流を見極めながら、子どもたち一人ひとりに寄り添い、全教職員で教育を進めていきたいと思っています。

## お知らせ

昨日1月30日金沢公会堂の新しい大きいステージで、金沢区個別支援学級合同学習発表会が行われました。本校の3・4組の11名の子どもたちも太鼓の演技で堂々と発表してきました。3日前の音楽集会では体育館ステージで全校児童に発表しましたが、みんな真剣に聴いてくれて大きな拍手をもらい、自信をもって本番に臨むことができました。保護者の方の応援も受け、一人ひとりが輝いていました。(釜南ソーランの法被をまとい)

